

連続学習会のご案内



Rise Together for Women in East Japan Disaster
東日本大震災 女性支援ネットワーク

防災・防犯

番外編・調査

DV・性暴力・人身売買

居住

外国籍市民・セクシュアルマイノリティ

雇用

社会保障・福祉

災害時に、障害者・女性・外国籍市民・セクシュアルマイノリティなど「社会的脆弱性を強いられた人々」の被害は重篤になることが分かっています。そして、日本の法制度は、決して多様な人々に「優しく」は作られていません。

そこで私たちは、被災から復興まで、多様なニーズを持つ人々の人権を守ること、制度政策・具体的な現場の対応の中にダイバーシティの視点を徹底することを求め、七つの分野での連続学習会を企画しました。

「今しか、機会はない。」そんな想いで、各分野の「プロ」をお招きして、復興のプロセスを検証し、多様な人々の人権を「きちんと」保障させるための手掛かりをつかみたいと思っています。TVや新聞やインターネットじゃ取り上げてくれない、「今、本当に必要なこと」をいっしょに考えましょう。

9/22木	“防災計画”は前例踏襲しない！ 見直そう！あなたのまちの防災計画&訓練 ~被災地における避難所の状況も踏まえて	防災・防犯	浅野幸子	前川典子
10/5水	「声を聴く、記録する、伝える」	番外編・調査	ゆのまえ知子	柘植あづみ
10/13木	DV・性暴力を許さない社会づくりを 日本の人身取引問題を通して考える、災害とマイノリティの方たちへの支援	DV・性暴力・人身売買	近藤恵子	藤原志帆子
10/27木	誰もが人間らしく住むために ~非常時の住まい・コミュニティ、日常時の住まい・コミュニティ~	住居	中島明子	吉田洋子
11/3木	見えないものに目を凝らす 見えにくい“マイノリティ”いないことにしないためには ~世界の災害とLGBTの経験から~	外国籍市民・セクシャルマイノリティ	山下梓 小澤かおる	コメンテーター 崔善愛
11/8火	被災前よりまともな働き方を	雇用	中野麻美 河村直樹	コーディネーター 竹信三恵子
11/17木	福祉は、権利です 災害と女性 今何が起きているのか 何をすべきか	社会保障・福祉	赤石千衣子	瀬山紀子

●時間・各回 午後7:00~9:00 ●参加費 500円 ●託児 なし

●会場 オフィスパール3F 会議室/文京区本郷1-35-28 メゾンドール本郷302 ★都営地下鉄大江戸線・三田線 春日駅A1出口より徒歩2分、東京メトロ後楽園駅より徒歩3分

●Note Takeをご希望の方はあらかじめご相談ください。 ●主催 東日本大震災女性支援ネットワーク この学習会は、国際協力NGOオックスファムの協力により開催します。

●お問い合わせ・お申し込み先 東日本大震災女性支援ネットワーク事務局 TEL & FAX 03-3830-5285 E-mail office@risetogetherjp.org

連続学習会 講師紹介



Rise Together for Women in East Japan Disaster
東日本大震災 女性支援ネットワーク

浅野幸子(あさの さちこ)

早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」客員研究員。過去に関東大震災や戦争で焼け野原になった歴史をもつ東京の下町で育ったことから、災害に関心をもつ。1995年3月、大学卒業と前後して阪神・淡路大震災のボランティアとして現地に入り、仮設住宅や全焼地域の復興まちづくり支援で4年間過ごす。帰京後、(財)消費生活研究所を経て、現在、全国地域婦人団体連絡協議会(地域婦人会・女性会のネットワーク組織)の事務局員・研究員。この間、災害社会学の研究室に所属し、働きながら大学院で政策科学修士号取得。早稲田大学と東京女学館大学で非常勤講師も勤める。

前川典子(まえかわ のりこ)

ダイバーシティ研究所理事・研究員。専門商社で事務・営業職を経験後、英国で身体障がい者支援団体でのインターン、大阪、神戸の市民活動団体で勤務を経てダイバーシティ研究所の設立に参加。2008年より東京在住。東京事務所の開設、SRを推進するネットワーク等への参画、人口変動に関する調査研究への協力担当。他、広報・書籍編集等。東日本大震災では宮城県において、多様性の視点による避難所支援プログラムのコーディネートに携わった。

ゆのまえ知子(ゆのまえ ともこ)

DVを経験した女性たちのサポートグループファシリテーター。1990年代初めに相談員、研究者などと日本で初めてDV全国調査を実施し、DVの顕在化のきっかけとした。その後、自治体やNGO/NPOのインタビュー調査やグループインタビュー調査、アンケート調査などに関わってきた。

柘植あづみ(つげ あづみ)

明治学院大学社会学部社会学科 教員。専門は医療人類学。インタビューやフィールドワーク、アンケート調査などの調査を使って女性の健康に焦点をあてて医療技術と科学技術をジェンダーの視点から批判的に検討している。

近藤恵子(こんどう けいこ)

全国女性シェルターネットワーク共同代表。配偶者暴力防止・被害者保護法(DV防止法)が施行されてから10年、DV被害や性暴力被害を受けた女性や子どもを支援する活動を続け、2011年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞。

藤原志帆子(ふじわら しほこ)

米国NPOポラリスプロジェクト(ワシントンDC)での勤務を経て、2004年に同団体日本事務所「ポラリスプロジェクトジャパン」を設立。人身取引をなくすために、多言語の相談電話による被害の発見と救済事業を開始した。人身取引被害を受ける子どもや女性への現場での支援の傍ら、児童施設や入国管理局での研修講師としても活動している。311後、他団体と共に、震災後の暴力予防のための「女性・子ども応援プロジェクト」を立ち上げる。

中島明子(なかじま あきこ)

和洋女子大学生活科学系長・教授。1946年生。東日本大震災女性支援ネットワーク共同代表 研究の柱は、地域居住政策と「ホームレス」政策の統合と生活自立における居住保障の優先(ハウジング・ファースト論)、及び高齢者等の地域居住継続の課題、建築・都市計画におけるジェンダー(日本及び各国の女性建築士)、地域誌(千葉県市川市国府台地域)。主な業績として『目白文化村』(編著、1991年)日本経済評論社、『イギリスにおける 住居管理一オクタヴィア・ヒルからサッチャーへ』(2003年)東信堂、寄せ場型地域における居住支援、ホームレス女性等の一連の研究の後、『「路上生活者自立支援センター北寮」利用者の実態と「自立」支援の課題』(ハウジング・ファースト研究会、2010年)東京援護協会、「デンマークの住宅事情ー ヒュッゲと市場化」『住宅着工統計』2009年6月号、「社会保障としての地域居住政策の可能性ーイギリス、デンマークを視野に入れた課題」『住宅』日本住宅協会、Vol.60、2011年等。

吉田洋子(よしだ ようこ)

吉田洋子まちづくり計画室 主宰。成城大学共通教育研究センター非常勤講師(社会構造論)。神奈川大学法科大学院 客員研究員。NPO法人かながわ女性会議常任委員、国際女性建築家会議日本支部理事(UIFA JAPAN)、女性建築技術者の会会員、女性技術士の会会員、女性プランナーの会会員。NPO法人くらしと住まいネットワーク理事長、NPO法人アクションおっぱい理事長、反町駅前ふれあいサロン事務局長、トンボはドコまで飛ぶかフォーラム代表。NOO法人横浜ランナーズネットワーク会員、NPO法人アクションポート横浜会員、NPO法人まちづくり情報センターかながわ。多様なNPO法人などと住まいや暮らしの地域の課題解決に向けた様々な活動を行っている。市民と一緒に研究も進めている。また市民と行政と企業をつなぐコーディネーターとしていろいろな地域を走り回っている。共著として『トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト』(トンボはドコまで飛ぶかフォーラム)、『地域を元気にする7つのツボ』(NPO法人 アクションポート横浜)、『まちのルールづくり定石集』(さかえ住宅環境フォーラム)等。

山下梓(やました あずさ)

岩手県盛岡市在住。ゲイジャパンニュース共同代表。岩手レインボーネットワーク主宰。東日本大震災女性支援ネットワーク世話人。共訳書に『女性への暴力防止・法整備のための国連ハンドブック 政府・議員・市民団体・女性たち・男性たちに』(梨の木舎)がある。

小澤かおる(おざわ かおる)

JAPAN RAINBOW AIDメンバー。被災地の性的マイノリティのニーズ調査や原発被災の避難所での女性支援等に携わる。震災以降の東北訪問は10回を超えた。首都大学東京人文科学研究科社会学教室博士課程在学中。東京の女性的マイノリティコミュニティのスペース「LOUD」を拠点に、40歳以上のお茶会や「LOUD」の蔵書を読む会等を主催。

中野麻美(なかの まみ)

1975年北海道大学法学部卒業。日本労働弁護団常任幹事として活躍。1979年弁護士登録(東京弁護士会)。現在は、NPO派遣労働ネットワーク理事長。日本労働弁護団常任幹事として活躍。著書に『派遣法改正で雇用を守る』(共著)、『労働ダンピング～雇用の多様化の果てに』、『労働者派遣法の解説(3訂版)』などがある。

河村直樹(かわむら なおき)

全労働省労働組合中央副執行委員長 1983年、労働省兵庫県職業安定課採用、尼崎公共職業安定所に配属。尼崎、西宮、神戸 公共職業安定所にて職業相談、求人受理、雇用保険業務等を担当。1997年、全労働省労働組合中央執行委員、2004年より中央副執行委員長。「年越し派遣村」以降、各種相談活動に参加。

赤石千衣子(あかいし ちえこ)

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事。ふえみん婦人民主新聞編集長。反貧困ネット副代表。東日本大震災女性支援ネットワーク世話人。シングルマザーの当事者だった経験からシングルマザー、女性の支援を行う。編著書に『シングルマザーのあなたに 暮らしを乗り切る53の方法』(現代書館)ほかがある。

瀬山紀子(せやま のりこ)

アジア女性資料センター運営委員。DPI女性障害者ネットワークメンバー。東日本大震災女性支援ネットワーク世話人。障害女性の貧困等をテーマにした研究活動を行いながら、女性・障害問題にまたがる活動を行う。論文に、「障害女性の貧困から見えるもの」松井彰彦他編『障害を問い直す』(東洋経済 新報社、2011年)ほかがある。